

Reflective Essay for 俳句and 詩

俳句は短くても、とても素晴らしいです。それはたくさんの言葉を使わずに、季語一つで、言いたいことを伝えることができるからです。そして五、七、五、の十七音でできている ルールを含め、とてもいいリズム感があります。

私は自分で俳句を書きましたが、難しいと思いました。それは、自分は才能がないからです。なお、俳句のことがわからなかったので、自分で書いて俳句の魅力を感じました。季語や五 七 五、もしくは対照を使うことでさわやかな気持ちで聞くことができます。

俳句には季語が必要なのは季節や時間と広大な空間が表わすことができます。俳句は短い詩なので、一つの言葉の中に大きな宇宙が示していると思います。

松尾芭蕉の俳句の中からは 草の戸も住み替わる代ぞひなの家がなんとなく好きでした。それは旅に出かけるひとりの男子(芭蕉)の家の住人が変わり、女の子のいる家に代わることの対照がとてもひびきました。

私は両方の詩に興味を持ちましたが、宮沢賢治の雨にも負けずはとても印象的でした。それは、なにかつらいことがあっても、くじけないで先へ進むことや、人が助けを求めれば手伝うことと、自分はささやかな人生を送ることが一番大切だと思いましたからです。

日本語で詩を作って、やはり私は創造性がないことがわかりました。しかし、作ってみて難しかったけどおもしろかったと思いました。俳句や詩を詠む作家はすばらしいです。

実際、自分で作ってみて、人の作品を読むことで作家の才能がよくわかりました。

。